



フロントボンネットの素材はノーマル同様アルミ製。開閉のためのキャッチとヒンジは付いておらず、ボンネットピンで固定されている。

フロントガラス以外は全てアクリルガラスに変更。ウインドの開閉は出来ないが、ドライバー側のドアには小さな窓が備わり、スライドして開閉が可能。

G-Techが得意とするエキゾーストシステムはオリジナル。パワーとトルクを得る重要なパーツだ。リアバンパー下部に備わるカーボン製ディフューザーはフロント下部から入る空気を整流。その効果は大きく、高速度の安定性に貢献している。



大きく開いたフロントバンパーの奥には大型のインタークーラーとラジエーターが備わる。高いダウンフォースを得るために、新たにリップスポイラーも追加装備された。



不要なパーツを取り外されたコックピットはとて簡潔。ドア内部のパーツは全て廃止し内貼りにはカーボンパネルで製作。シートはスバルコ製のフルバケットとなる。



デザイン性に富んだステアリングは、残念ながら日本のレースでは使用が認められなかった。メーターはデジタル表示でAIM社のトップモデルMXLを装備。このメーター1つで走行中に多くの情報を得ることができる優れモノ。



オリジナルのダッシュボードは取り外しカーボンパネルで形成。シフトノブ付近にあるパネルには電動ファンやトラクションコントロールなどのスイッチが備わる。トランスミッションは5速 H Schaltung mit Dog Box Systemを採用。



フロントのブレーキローターは305mmのドリルドローターと4ポットの大型キャリパーのマッチング。エアダクトも付き高温になるブレーキを冷却。フルブレーキングの際、クルマが不安定になるアバルトの特性をいかに消せるかが課題。



リアブレーキはフィット社オリジナルの1ポッドキャリパー。ローターは穴が空けられたドリルド。ショックアブソーバーは前後ともにビルシュタイン製。ホイールはTWS製。タイヤはYOKOHAMAのスリック。サイズは215/45R17。撮影時は簡易的なオーバーフェンダーだったがレース本番は異なるフェンダーが装備される予定。



搭載されるエンジンはG-Techが開発したレース用エンジン。4気筒1368ccながら220Psを発揮する。開発力と耐久性を兼ね備えたSpecialエンジンだ。



G-Techのトップモデル Sportster GT を凌ぐポテンシャルを極めたのがこのマシン。G-Techが得意とする10cm低くしたチョップドールフが採用され、オリジナルのアバルトよりも空気抵抗を飛躍的に軽減。レースで戦う上で不要なパーツをすべて取り外し、車重は980kgまで軽量化。スーパー耐久シリーズに出場するために製作されたG-Techが誇るスペシャルモデルだ。



G-Tech RACING レーススケジュール

3月29～30日	ツインリンクもてぎ
7月26～27日	富士スピードウェイ
9月6～7日	岡山国際サーキット
10月25～26日	鈴鹿サーキット

G-Tech Racing についてのお問合せ
[G-Tech 総輸入元]
EXPRIDE
〒452-0962 愛知県清須市春日砂質東130
TEL:052-400-5554
HP: <http://www.g-techgmbh.jp/>
Official Facebook: <https://www.facebook.com/gtech.jp/>

03

文●武井真史 写真●雨田秀明
text by TAKEJI Hirokuni
photos by AMADA Yoshiaki

スーパー耐久参戦の
スポーツスターGT/Rをキャッチ

RACING SCENE

G-Techがスペシャルモデルを発表。日本独自のレースカテゴリ「スーパー耐久シリーズ」に出場するために製作されたスペシャルバージョン。その名もSportster GT/Rだ。

» G-Tech Sportster GT/R

ドイツのチューニングメーカー「G-Tech」がスーパー耐久シリーズへの参戦を発表した。車両はアバルト500をベースとしたG-Tech製作のスポーツスターGT/R。速さと耐久性を追求して造られたG-Techの渾身のスペシャルモデルだ。

全てのパーツを外した後にスポット増しを施してシャシー剛性を上げ、加えて軽量化を図ることでパワーウェイトレシオを向上。もちろん同社お得意のチョップドールフも採用。本来、スーパー耐久に出場できるのは量産車両だけだが、日本独自の進化を遂げたカテゴリという事もあり、オーガナイザーが認めた車両は特認車両としてレースへの参戦が可能となっている。スポーツスターGT/Rは、この特認車両として出場が認められた。

スーパー耐久の魅力は、6クラスが一斉にスタートし、各クラスで順位を競うところ。レースは3時間から7時間の耐久形式で行われる。マシンに求められるのは、速さ、耐久性、優れた燃費性能だ。G-TechがエントリーしているのはST4クラス。このクラスはトヨタ86やスバルBRZ、ホンダ・インテグラ、シビックなどがライバルとなる。特にS2000を始めとしたホンダ勢の速さは際立っており、常に上位を独占している。ホンダ系のマシンがライバルとなるのは必至。さらに参戦2年目を迎える86とBRZも徐々に進化しており、侮れない存在だ。ST4は6クラス中、参加台数が最も多い20台がエントリーしている超激戦区。そこで凌ぎを削り得たノウハウをクルマ作りにはフィードバックすることが最大の目的となる。